

校長だより

「みやまの桜」

兵庫県立高等特別支援学校

URL: <http://www.hyogo-c.ed.jp/~koto-sn/>

平成26年12月23日

第49号

みやまの桜とは、深い山に咲く桜のことです。良い花を咲かせると、人が足を運びそこに道ができます。すると、その桜はとても貴重なものになるのです。本校は、生徒が素晴らしい花を咲かせるお手伝いをする学校です。

＜人を育てる人間学＞ 「仕事は祈り」

仕事は祈りであるということは、自らの最善をつくして、それ以上に神に祈るということである。この気持ちに徹すれば、いつも楽しく仕事が出来、たとえ仕事の上に、一時的にいろいろと波があっても、大局的には必ず仕事は順調に進み、しまいには楽しさのなかで、仕事の仕事が導いてくれるようになる。

人生に望ましいのは失敗や困難がないということではなく、決してそれに敗けない、ということである。凸凹（でこぼこ）のある人生がかえって味があるとは、また面白いものである。

仕事は祈りである。仕事は人生を内容づけ、価値づけるもので、人生の目的そのものともいわれよう。

目標がなければ、忍耐がない。目標がないと何事も成しえない。目標のないものは、病気をもなおせぬ。苦勞しても目標をもっている間は、人間が光っている。

ご苦勞であったと、しみじみと人生を感じる。成功だけではない。失敗もあつたが、皆過去の経験を将来に生かさねば本当ではない。つまらぬ経験はない。人生に無駄なことはない。殊によく考える人には無駄がない。

成功は成功、失敗は失敗であるが、失敗のマイナスを持たぬ人には成長はない。失敗はむしろ自分を知るために必要な材料である。

過去の経験は今日、明日の土台となる。それは伸びるためのものである。困難に直面することは自らを如何に生かすかのチャンスである。ここに人間無限の可能性のスタートがある。自分を大事にせよ、自分を大切にせよ。まことに生きるということは、一日はおろか一瞬とても自らの工夫による自力だけでは不可能なことで、大自然から与えられた人智の彼方の生命力によるものである。

考えて見ればこの複雑きわまる人間の体が、多くは一度の病気で無駄にならずに、病むことによって、修理ができるということは不思議なことである。

不幸は人間を苦しめるというが、よく考えてみると、人間を苦しめるのは不幸そのものではなく、不幸だと思うその考え方自体である。

仕事は誰よりも上手にやり、与えられた仕事を十分に楽しむ。

人からほめられなくても、自分が自分に感謝する。

君がおらぬと、周囲が困るような人になりなさい。

元京都大学総長 平澤 興 著 『生きよう今日も喜んで』より

＜編集後記＞ 平成26年12月6日（土）～23日（火）の祝日及び金土日、三田の有馬富士公園



で、三田の冬の風物詩とも言える「パークイルミネーション in さんだ」が開催。昨年度に引き続き本校美術部も出展している。三田市内の小・中・高・特別支援学校が飾り付けたイルミネーションコンテストも実施され、訪れた人々を楽しませている。

23日(火)に予定されていた終業式は、学校閉鎖のため中止となった。生徒のいない学校ほど寂しいものはない。普段からの関わりを通じて、教職員の気持ちはきっと生徒に伝わっていることだろう。個人的なことになりますが、8月の水害の際は、お見舞い・ボランティアありがとうございました。showa1954.jugem.jpにて感謝の気持ちをアップしています。では、皆様よいお年をお迎え下さい！